

ITR の調査により、日本のビジネスパーソンの コラボレーションの課題に対する Adobe Acrobat および Adobe PDF の有効性が明らかに

【2009年3月25日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：クレイグ ティーゲル（Craig Tegel）以下アドビシステムズ）は本日、独立系 IT 調査・コンサルティング会社である株式会社アイ・ティ・アール（本社：東京都新宿区、代表取締役 内山 悟志、以下 ITR）の「職場のコミュニケーションに関する調査」報告書で明らかになった、日本のビジネスパーソンが社内外での「コラボレーション」（※ 1）で IT を活用する際の課題に対し、アドビシステムズが提供する Adobe® Acrobat® および PDF の活用が有効なソリューションとなると発表しました。

ITR による「職場のコミュニケーションに関する調査」は、2008年10月、700名のビジネスパーソンを対象に、社内外で業務コラボレーションする際の IT 活用の実態についてインターネットを通じて調査したものです。調査の対象者は、企業での文書作成や管理ソフトウェアの選定に何らかの関わりを持っており、購入の意思決定者は 47% を占めます。

同調査によって、ビジネスパーソンが業務を遂行していく上で社内外とのコラボレーションをする頻度が高いことがわかりました。従業員数 100 名以上の企業に所属する回答者の 86% が頻繁にコラボレーションを行っています。ビジネスパーソンが社内外でコラボレーションをする際、電子メールによるコミュニケーションが主流であり、回答者の 67% が社内でのコラボレーションに、74% が社外とのコラボレーションに電子メールにファイルを添付して行っていることが明らかになりました。その一方で、コミュニケーションの手段として「ブログ」や「IM（インスタントメッセージ）」、「Wiki」、「ビデオ会議」などのいわゆる Web 2.0 ツールの利用者は約一割程度にすぎないことがわかりました。

ITR のシニア・アナリストである生熊 清司氏は、「経営環境が激変する時代では、IT を活用したコラボレーション環境を作ることによって個々の従業員の力を活かすことが企業競争力を高めます。より長期的には Web2.0 などの最新技術を利用した高度なコラボレーション環境の構築が望まれますが、経済情勢の悪化が深刻となった現在では、最も利用されているコミュニケーション手段である電子メールを活用することで、IT によるコラボレーションの効率を上げることが、最適なソリューションとなります」と述べています。

アドビシステムズ社 ビジネスプロダクティビティ部門担当 上級副社長であるロブ ターコフは、「欧州と米国で行われた同様の調査でも似たような傾向の結果が出ています。それによると、ビジネスパーソンがコラボレーションをする際の IT の効率的な活用において地域の違いを問わず共通する課題があることがわかりました。アドビシステムズ社の Adobe Acrobat および PDF といった企業の生産性を向上させるソリューションや技術によって組織の大小を問わずビジネスパーソンはより効率的に、確実にコラボレーションすることができ、今日の難しい経済状況の中で競争力を高めることができます」と述べています。

調査報告書の結果から明らかになった課題と Acrobat 9 の提供するソリューション
本調査報告書で、ITRは社内外での効率的なコラボレーションを行うにあたってビジネスパーソンが抱えている3つの課題を提示しています。それらに対し Adobe Acrobat 9 ファミリー製品を活用することで改善を図ることができます。

■情報収集に求められる効率

本調査報告書によると、回答者の36%が月に一回以上「複数の外部の関係者から定型情報を収集する」としており（月1回未満を含めると全回答者の66%）、そのうち約85%が「電子メールに用紙やフォームなどを添付して配布」と回答しています。また、より良い方法を検討する際に、74%の回答者が電子メールを使うことにより「より速く、効率的に情報を収集できる」点を挙げ、52%が紙の使用量削減を重視していると答えました。さらに、全回答者の72%は情報収集を効率化するための新しいツールの習得に関心を持っているという結果が出ており、情報収集においても効率化を求める傾向が顕著にみられます。Adobe Acrobat は、既存の電子メールやファイルサーバなどのインフラを活用しながら、ビジネスパーソンのコラボレーション効率を手軽に向上させることができるツールです。Adobe Acrobat 9 の PDF フォーム機能を活用することにより、ビジネスパーソンは電子メールやイントラネット、ホステッドサービスである Acrobat.com と組み合わせることで簡単にアンケート等のフォームを作って、配布することができます。また、フォーム経由で回収された結果は、自動的に集計、分析されるため、より効率的な情報収集が可能になります。

■コラボレーションに必要とされる表現力

本調査報告書によると、全回答者の79%が業務上の目的で魅力的で説得力のある資料作成の必要があるとし、それらのうち約7割が多様なファイルを用いて資料を作成していると回答しています。さらにそういった複数のファイルを電子メールで送信する際、ファイル形式を束ねるための統一的手法は確立されておらず、自分が送信したファイルを相手を読めるかどうか最も大きな懸念事項であること、資料自体の表現力が問題視されていることが明らかにされています。Adobe Flash® テクノロジーをサポートした Adobe Acrobat 9 では、PDF ポートフォリオ機能によって各種アプリケーションで作成されたファイルを圧縮しながら束ねることができるほか、PDF 内への動画の埋め込みにより、視覚的にも優れた表現力のある資料作成が可能となります。電子文書交換の ISO 標準規格であり、インターネット上で最も広く使用されているファイル形式である PDF を使用することにより、ファイルの受信者が全ての受信ファイルを正しく開き、読み取ることが出来ないのではないかとというビジネスパーソンが持つ懸念が取り除かれます。電子メールに異なるファイル形式で複数のファイルを添付するのではなく、一つの PDF 形式のファイルにまとめ、配信することにより、事実上全てのユーザーがファイルの作成者が意図したように各ファイルを閲覧することが可能になります。（※2）

■機密情報に対するセキュリティーニーズ

本調査報告書によると、回答者の50%が日常的に機密情報のやり取りを行っており、セキュリティーに対する不安は社内外でのコミュニケーションを問わず高いものの、アプリケーションのセキュリティー機能を使って情報の暗号化を行っているビジネスパーソンは34%である一方で、機密情報の共有時に暗号化、アクセス管理、改ざん防止のいずれの対策もとっていないビジネスパーソンは32%にのぼることが判明しました。Adobe Acrobat 9 を使用することにより、ビジネスパーソンはより簡単により安全にコミュニケーションやコラボレーションをすることができます。Adobe PDF にセキュリティーポリシーを付与し、手軽に文書へのアクセス権や操作を制限することができ、機密情報を含んだ文書を強固に保護し

ます。また Adobe Acrobat 9 を使用すれば 2D の設計ファイルや 3D モデル、仕様、契約書、あるいはその他のプロジェクト関連の資料をオリジナルのファイルを添付することなくチームやクライアントとやり取りすることができ、貴重な知的資産を保護することが可能になります。

ITR が行った本調査報告書に関する詳細な情報は、以下 URL をご参照ください。
http://www.itr.co.jp/press_release/090106PR/

Adobe Acrobat 9 に関する詳細な情報は、以下 URL をご参照ください。
<http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/>

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、時間や場所、利用するメディアや機器を問わず、あらゆるユーザーの、アイデアや情報との関わり方に革新をもたらしています。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.com/jp> に掲載されています。

- ※ 1 この調査の対象となったコラボレーションとは、2 名以上の人が会議の開催、ミーティング実施、文書の承認、または文書その他の提出物作成などを通じて共同で作業を行うことを意味します。
- ※ 2 PDF ポートフォリオを最大限に活用するには Adobe Reader®（無料）または Adobe Acrobat 9 ソフトウェアのインストールが必要です。